

成果指標				
成果指標	閲覧室の利用者(貸出人数と閲覧のみの合計人数)／開館日数 単位:人／日			
指標設定の考え方	一日当たりの平均利用者数を指数とし、図書館利用者の拡大の目標とする。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	目標27年度
目標	200	200	200	200
実績	201	194	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	5	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	資料収集に際し、新館建設を見据え、蔵書計画を策定しなければならないと考えている。なお、専門性が高い業務であるため、正規の司書職員の配置が望ましく、多角的な選書となるよう学校や地域などへの呼びかけも検討していきたい。また、郷土資料の活用についても考えていきたい。広く情報発信をして、郷土愛や地域への誇りを育むことは、過疎対策にもつながると考えている。なお、災害から資料を守るために、デジタル化や安全な場所での保管なども検討する必要がある。デジタル化は資料の活用及び情報発信等に大きく寄与するものであり、近年全国的にも多く導入され経費も安価になっていることから、新館建設に向けた一つの計画として検討していきたいところである。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	新館の開館に向けて選書基準等を定めた蔵書計画を定めていく必要がある。埋蔵文化財や古文書などの郷土資料の活用についても検討が必要である。今後開館に向けて検討していく運営管理計画の作成にあたってこれらのことを検討していく必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	行政評価委員会の抽出事業により、外部評価に諮ることとする。

行政評価委員会の答申

<p>外部評価 (行政評価委員会)</p>	<p>・将来を担う子どもたちに欠かせないものの一つである。本を通して人材育成が図れる図書館であってほしい。・老朽化として今の施設を建替えるのはもったいない気がする。・司書資格を持ったパートや契約社員は、正規職員としていてもらう必要がある。買う本を節約してでも、職員を擁することを考えていただきたい。・新館に合わせ、リサイクルやリユースという図書館運営事業をされるとよいと思う。・図書館は人と人との出会いやつながりを作るものである。今までのような既成概念だけでなく、使う人、利用したい人の立場からもう一度見直すべきである。・郷土資料は過去から未来へつなげる存在である。ただあるから見てくださいではなく、専門家の協力を得て情報発信していかないといけない。アーカイブスも含めてデジタル化する必要がある。・全国のネットワークを作ってほしい。・図書館の利用案内パンフレット配布などぜひやってほしい。いろいろな種類の雑誌を入れるよう検討してほしい。</p>
---------------------------	--

経営者会議の最終判断

<p>事業の方向性</p>	<p>下記の点を見直しの上、継続する。</p>
<p>意見、課題</p>	<p>現状を良くするため、少しでも前倒しする方向で進めていくこと。</p>